

私立大学の建学精神の類型

— 女子大学の位置づけ —

岡田典子

(2002年9月30日受理)

A typological study of fundamental philosophies
of private universities
— The positions of women's universities —

Noriko Okada

The purpose of this paper is to typologically examine fundamental philosophies of private universities, using descriptive materials in 1986 published by the universities. The findings of this examination are the following;

- 1) Fundamental philosophies tend to emphasize the encouragement of the students and the emphasis are classified into six types; "industrial development" (type 1), diligence (type 2), leadership (type 3), cultural enlightenment (type 4), Christian mentality (type 5), and Buddhist mentality (type 6).
- 2) Women's universities give greater importance to philosophies type4-6 than to type1-3. Especially, more women's universities established in 1948-1965 than ones established in other periods encouraged women to be a good wife and wise mother.
- 3) From 1987 onward, more women's universities with philosophy type4 tend to turn into coeducational universities than others.

Key words: fundamental philosophies, private universities, women's universities

キーワード：建学精神，私立大学，女子大学

I. 研究の目的

平成10年10月の大学審議会答申「21世紀の大学像と今後の改革方策について—競争的環境のなかで個性が輝く大学—」において、大学の「教育研究についての理念・目標を明確にし大学の多様化・個性化を進める」必要性が示された。さらに、私立大学については、「それぞれの建学の精神にのっとった自主的な運営」による社会の多様なニーズへの対応や特色ある教育研究の実施が期待されている。このように、高等教育の市場化、ユニバーサル化、少子化など、大学の置かれた環境の変化に適応するため、大学の戦略的経営の重要性が高まってきている。その使命や目的を明確に打ち出すことが迫られている各大学は、建学の精神を再

検討している。

女子大の場合は特に顕著である。18歳人口の減少に加えて、共学志向による志願者数の減少等、女子大を取り巻く環境は大きく変化している。また、社会状況や女子教育観についても大学設置当時とは異なってきており、建学精神や教育理念が、時代や社会のニーズに適合し難しくなっている大学も多いであろう。

建学精神とは、「学校創設者の教育理念であると共に、その理想の実現を学校教育によって可能にしようとする熱意と方法を含むもの」(片山 1984, 171-172頁)とされるように、組織の性格を決定付ける重要な文化である。それゆえ、私立大学の建学精神を分析することにより、私立大学の組織文化を概観できると考える。

よって、本稿では、まず、私立大学が公表している記述資料をもとに、建学精神や教育理念を整理し、その内容の類型化を試みる。次に、その類型と大学の特性との関連、特に女子大の建学精神の特徴に焦点を当てて分析する。

II. 分析の資料と対象・方法

ところで、学生便覧や大学案内に見られる建学精神の記述方法は多様であり、記述量にもかなりのばらつきが見られる。なかには学生獲得競争の熾烈化による経営的認識から、独自の建学精神を明確に記述しない大学もある。大学大衆化の波の只中で、今現在の建学精神・教育方針を収集整理し、大学間比較を行うことはやや困難である。

これらの点から、分析にあたっては、日本私立中学高等学校連合会創立40周年記念誌『私立学校の特色』（1987）を資料とし、その記述内容を分析した¹⁾。本誌は、日本私立中学高等学校連合会の会員校の特色が各校1頁にまとめられており、各学校だけでなく学校法人の建学精神（及びそれに基づく教育理念）が記述されている。

本誌を用いた分析の対象となるのは、1986年度当時に既に開設されており、かつ、附属中学校・高等学校を併設する大学で、分析資料に建学精神の記述が見られる大学である²⁾。

この結果、分析の対象となった大学は、1986年度までに開設されていた全334大学のうち、204大学（61.1%、194法人）であり、女子大は約3割を占める（表1）。なお、女子大65校のうち15校（23.1%）は、現在共学化している。

表1. 分析データの概要

		度数	%
全体		204	100.0
女共 子学	共学大	139	68.1
	女子大	65	31.9
宗 教	キリスト教系	37	18.1
	カトリック系	9	4.4
	プロテスタント系	28	13.7
	仏教系	24	11.8
	その他宗教	3	1.5
	非宗教	140	68.6
歴 史	旧私大	23	11.3
	旧私専	58	28.4
	新私大	123	60.3
		-1965年開設	29.4
		1966-1986年開設	30.9
当開 時学	単科大学	165	80.9
	複数学部設置大学	39	19.1
学 部 構 成 の 開 学 当 時 の	人文	83	40.7
	社会	64	31.4
	理・工・農	49	24.0
	医・歯・薬	7	3.4
	教育	9	4.4
	家政	21	10.3
	その他	23	11.3

分析にあたっては、まず204大学の建学精神の記述より、名詞あるいはそれに準ずる形容詞のキーワードを抽出し、その出現頻度を算出した。続いて、建学精神のキーワードの関連度を計測、類型化を行った後、得られた類型と大学の組織的特性との関連を、特に女子大を中心に分析した。

III. 分析結果

内容分析により、204大学を通じて抽出したキーワードは、計105である。類似したキーワードが複数ある場合は、1つのキーワードにカテゴリー化した。この105のキーワードのうち、出現頻度が複数回以上ある82のキーワードを分析の対象とした。

1. 建学精神と大学の組織的特性

大学の建学精神は、その組織的特性により異なることは想像に難くない。ここでは、大学の特性を、共学大・女子大、設置母体の宗教、大学の歴史、開学時点の学部編成の4点に限定し、建学精神のキーワードとの関連を検討した。表2は、建学精神のキーワード出現頻度の分布を示している。

まず、全体の傾向を見ると、出現頻度の高いキーワードは、「人間性・人格」（22.9%）、「キリスト教」（17.6%）、「愛」（16.1%）、「社会」（15.6%）等である。宗教的特性を表すキーワードが目立つとともに、キーワードが多岐に渡っており、幅広い建学精神の下で大学が設置されていることがわかる。

また、「女性・女子」の出現率が高いことから、女子大の建学精神が共学大学とは異なることは推測に易い。よって、次に、キーワードの出現頻度の分布を、共学大学と女子大とで比較検討する。

表2. 建学精神のキーワード出現頻度（共学大・女子大別） (%)

全体		共学大		女子大	
人間性・人格(形成)	22.9	人間性	20.1	女性・女子	46.2
キリスト教(カトリック・プロテスタント)	17.6	社会	18.0	愛	29.2
愛	16.1	国際性	16.5	人間性	29.2
社会	15.6	キリスト教	13.7	キリスト教	26.2
女性・女子	15.1	個・個性	13.7	自律・自立	23.1
自律・自立	14.6	貢献	10.8	知性・知育	15.4
国際性	13.7	自律・自立	10.8	奉仕・献身	15.4
個・個性	12.7	愛	10.1	尊厳	13.8
知性・知育	11.7	科学・学問	10.1	良妻賢母・家庭婦人の育成	13.8
奉仕・献身	10.7	実践・実行	10.1	情操・心情	12.3
全人教育(知・情・意の総合的発達)	10.2	体育・体	10.1	精進・努力	12.3
実践(力)・実行(力)	9.8	誠実	10.1	真理・真実	12.3
科学・学問	9.3	創造	10.1	全人教育	12.3
情操・心情	8.8	知性・知育	10.1	仏教	12.3
尊厳	8.8	技術	9.4	個・個性	10.8
仏教	8.8	発展・進歩	9.4	時代	10.8
		全人教育	9.4	社会	10.8
		不撓不屈・忍耐	9.4		
大学数 204	100.0	大学数 139	100.0	大学数 65	100.0

表3. 建学精神のキーワード出現頻度 (設置母体の宗教別)

(%)

キリスト教系		カトリック系		プロテスタント系		仏教系		その他宗教		非宗教							
キリスト教	94.6	キリスト教	88.9	キリスト教	96.4	仏教	66.7	社会	33.3	人間性・人格	20.0						
愛	56.8	愛	66.7	愛	53.6	人間性・人格	29.2	知性	33.3	自律	17.1						
人間性・人格	32.4	尊厳	55.6	人間性・人格	32.1	精進	25.0	情操	33.3	社会	16.4						
奉仕	29.7	良妻賢母	44.4	国際性	32.1	敬・敬虔	25.0	一般教育	33.3	個	14.3						
国際性	27.0	人間性・人格	33.3	奉仕・献身	32.1	和	25.0	科学	33.3	女性・女子	14.3						
全人教育	24.3	女性・女子	33.3	全人教育	25.0	尊厳	20.8	徳	33.3	知性	12.9						
神	21.6	奉仕・献身	22.2	神	25.0	女性・女子	20.8	国体	33.3	技術	12.1						
女性・女子	16.2	全人教育	22.2	個	14.3	真理・真実	20.8	平和	33.3	国際性	12.1						
尊厳	16.2	真理・真実	22.2	自律	10.7	社会	20.8	視野	33.3	実行	12.1						
個・個性	10.8	誠意	22.2	女性・女子	10.7	恩	20.8	生活	33.3	創意	12.1						
真理・真実	10.8	価値	22.2	責任	10.7	知性	16.7	忠愛	33.3	身体	11.4						
家庭婦人	10.8	国際性	11.1	一般教育	10.7	情操	16.7	明朗	33.3	科学	10.7						
		神	11.1	自由	10.7	全人教育	12.5			勤労	10.0						
		社会	11.1	光	10.7	自律	12.5			進歩	10.0						
		平和	11.1			品位	12.5			誠意	10.0						
		貢献	11.1			親切	12.5			徳	10.0						
		精進	11.1							不屈	10.0						
		開拓	11.1														
		信念	11.1														
		知性	11.1														
		実行	11.1														
		時代	11.1														
		協調性	11.1														
		滑らか	11.1														
大学数	37	100.0	大学数	9	100.0	大学数	28	100.0	大学数	24	100.0	大学数	3	100.0	大学数	140	100.0

1.1. 共学大・女子大別

まず、共学大学の場合、女子大と比較して「社会」「国際性」「創造」「技術」「発展・進歩」といったキーワードの出現率が高く、社会や産業の発展に資する国際性や創造性を兼ね備えた人材の育成を強調する建学精神が掲げられている。一方、女子大の場合、「女性・女子」のほか、「愛」「人間性・人格」「キリスト教」「自律・自立」「奉仕・献身」「情操・心情」など、宗教及びその精神性を表すキーワードの出現率が共学大学より高く、人間性の涵養を目的として設置されている女子大が多いことが読みとれる。また、「良妻賢母・家庭婦人の育成」といった女子の特性教育を表すキーワードも13.8%見られた。

1.2. 設置母体の宗教別

表3は、建学精神キーワードの出現頻度を、設置母体の宗教別に示したものである。

表3より、宗教系大学では、宗教及びその性格を示すキーワードが並んでおり、教育理念の中核に据えられていることは一目瞭然である。特徴的なキーワードを見ると、キリスト教系大学全体では、「キリスト教」「愛」「神」「奉仕」といったキーワードが多用されている。キリスト教系大学を宗派別に見ると、カトリック系大学では、「良妻賢母」の育成が44.4%、プロテスタント系大学では「国際性」の涵養が32.1%の割合で出現している。また、仏教系大学では、「精進」「敬・敬虔」「和」(25.0%)を掲げているところが多い。

一方、非宗教系大学では、「人間性・人格」が20.0%と出現率が最も高く、「自律」(17.1%)、「社会」(16.4%)がこれに次ぐ。

表4. 建学精神のキーワード出現頻度 (歴史別)

(%)

旧私大		旧私専		新私大(-1965年開設)		新私大(1966-86年開設)					
自由	21.7	人間性・人格	27.6	人間性・人格	20.0	人間性・人格	23.8				
質実剛健	17.4	キリスト教	24.1	社会	20.0	自律	22.2				
自律	17.4	女性・女子	22.4	愛	18.3	キリスト教	17.5				
人間性・人格	17.4	国際性	19.0	女性・女子	16.7	精進	17.5				
全人教育	17.4	愛	17.2	実行	16.7	愛	15.9				
恩	13.0	社会	15.5	キリスト教	15.0	国際性	15.9				
科学	13.0	奉仕	15.5	知性	15.0	社会	15.9				
国際性	13.0	個	13.8	個	13.3	個	14.3				
真実	13.0	責任	13.8	全人教育	13.3	全人教育	14.3				
仏教	13.0	知性	12.1	情操	11.7	協調性	12.7				
愛	8.7	情操	12.1	誠意	11.7	貢献	12.7				
畏敬	8.7	尊敬	12.1	創意	11.7	進歩	12.7				
キリスト教	8.7	徳	12.1	礼	11.7	仏教	12.7				
国体	8.7	自律	10.3	国際性	10.0	技術	11.1				
社会	8.7	真実	10.3	尊敬	10.0	品位	11.1				
進歩	8.7	一般教育	10.3	自律	10.0	明朗	11.1				
信用	8.7			一般教育	10.0						
創意	8.7			科学	10.0						
知性	8.7			身体	10.0						
品位	8.7			勤労	10.0						
奉仕	8.7			不屈	10.0						
				恩	10.0						
大学数	23	100.0	大学数	58	100.0	大学数	60	100.0	大学数	63	100.0

1.3. 大学の歴史別

分析にあたって、対象となった大学の威信や開設年度をもとに、大学を「旧私大」「旧私専」「新私大(-1965年開設)」「新私大(1966-86年開設)」の4つに分類した。まず、大学の威信に基づき、私立大学を「旧私大」「旧私専」「新私大」に区分した³⁾。また、「新私大」を、私立大学が拡大した時期であり、社会・経済の急速な発展

による人材需要から教育に対する要請が行われた時期を基準に、1965年度以前に開設された新私大と1966年から1986年に開設された新私大とに分類した。

表4は、建学精神キーワードの出現頻度を、大学の歴史別に示したものである。

まず、「旧私大」として出発した大学をみると、「自由」(21.7%)の出現率が最も高く、以下「質実剛健」「自律」「人間性・人格」「全人教育」(17.4%)が続く。「旧私専」として出発した大学は、「人間性・人格」に次いで、「キリスト教」(24.1%)、「女性・女子」(2.4%)、「国際性」(19.0%)の出現率が高い。また、「新私大(-1965年開設)」と比較して、「新私大(1966-86年開設)」は「貢献」「発展」「技術」といったキー

ワードが見られる。

なお、女子大のみを歴史別にみた場合(表5)、全体として「キリスト教」「愛」「人間性・人格」が多いが、「旧私大・旧私専」は、「知性」「一般教養」が高い。また、「国際性」「自律」などの出現率も高く、情緒面の涵養と同時に、知識や国際性を身につけた女性の育成を理念としていたことが窺える。また、1965年度までに新私大として出発した女子大の場合、「良妻賢母」「時代」「社会」の割合が高く、良妻賢母主義のもとで、時代や社会に対応し、知性と情緒の双方を身につけた女性像が窺える。ただ、「良妻賢母」は1966年以降年以開設の女子大では見られず、「自律」が45.0%と高い値を示している。

表5. 建学精神のキーワード出現頻度 (女子大のみ歴史別)

旧私大・旧私専	新私大(-1965年開設)	新私大(1966-86年開設)
女性・女子 50.0	女性・女子 58.8	自律 45.0
愛 28.6	人間性・人格 41.2	女性・女子 30.0
キリスト教 28.6	愛 29.4	愛 30.0
人間性・人格 25.0	キリスト教 23.5	人間性・人格 25.0
奉仕 21.4	良妻賢母 23.5	キリスト教 25.0
知性 21.4	時代 23.5	奉仕 15.0
一般教育 17.9	知性 17.6	仏教 15.0
良妻賢母 14.3	情操 17.6	品位 15.0
尊敬 14.3	社会 17.6	尊敬 15.0
精進 14.3	仏教 17.6	全人教育 15.0
真実 14.3	全人教育 17.6	精進 15.0
自律 14.3	実行 17.6	個 15.0
国際性 14.3	礼 17.6	技術 15.0
徳 10.7	科学 17.6	和 10.0
責任 10.7	身体 17.6	真実 10.0
進歩 10.7	尊敬 11.8	信念 10.0
情操 10.7	真実 11.8	情操 10.0
社会 10.7	自律 11.8	実力 10.0
個 10.7	親切 11.8	質実剛健 10.0
堅実 10.7	恩 11.8	自由 10.0
勤勉 10.7	地位向上 11.8	協調性 10.0
畏敬 10.7	規律 11.8	希望 10.0
		恩 10.0
		意 10.0
大学数 28 100.0	大学数 17 100.0	大学数 20 100.0

1.4. 開学当時の設置学部別

大学開設当時に設置された学部を7カテゴリーに分類し、開設学部と建学精神との関連を集計したものが表6である。なお、設置当初より複数の学部で構成されていた大学、例えば、人文学部と家政学部の2学部で出発した大学は、「人文」「家政」双方で分析の対象とした。

開設時に「人文」系学部を設置していた大学の建学精神を見ると、「キリスト教」「仏教」といった宗教関連のキーワードの出現率が高い。宗教への理解や宗教的情操の涵養を目的として人文系学部を設置し、大学を開設した傾向が窺える。「社会」系学部では「国際性」「社会」「個」「理・工・農」系学部では「自律」「技術」「工業」の出現率

表6. 建学精神のキーワード出現頻度 (設置当初の学部構成別)

(%)

人文	社会	理・工・農	医・歯・薬	教育	家政	その他
キリスト教 31.3	国際性 21.9	人間性・人格 24.5	人間性・人格 42.9	国際性 33.3	女性・女子 42.9	社会 26.1
人間性・人格 26.5	社会 20.3	自律 18.4	自律 28.6	女性・女子 33.3	人間性・人格 33.3	知性 21.7
女性・女子 21.7	個 18.8	技術 18.4	実行 28.6	自律 22.2	自律 23.8	芸術 21.7
愛 20.5	人間性・人格 17.2	個 16.3	品位 28.6	進歩 22.2	愛 23.8	人間性・人格 17.4
国際性 16.9	キリスト教 15.6	誠意 14.3	徳 28.6	創意 22.2	実行 19.0	愛 17.4
個 14.5	奉仕 12.5	愛 14.3	技術 14.3	身体 22.2	時代 19.0	精進 17.4
真実 14.5	科学 12.5	工業 14.3	個 14.3	勤勉 22.2	恩 19.0	文化 17.4
社会 13.3	進歩 12.5	科学 12.2	科学 14.3	奉仕 22.2	勤労 19.0	キリスト教 17.4
自律 13.3	実行 12.5	進歩 12.2	進歩 14.3	情操 22.2	奉仕 14.3	女性・女子 13.0
仏教 13.3	質実剛健 12.5	キリスト教 10.2	質実剛健 14.3	実学 22.2	良妻賢母 14.3	尊敬 13.0
奉仕 12.0	誠意 12.5	実行 10.2	創意 14.3	敬愛 22.2	社会 14.3	一般教育 13.0
全人教育 12.0	全人教育 10.9	質実剛健 10.2	身体 14.3		知性 14.3	創意 13.0
知性 12.0	創意 10.9	全人教育 10.2	協調性 14.3			情操 13.0
科学 10.8	恩 10.9	創意 10.2	産業人 14.3			科学 13.0
自由 10.8	貢献 10.9	身体 10.2	国際性 14.3			貢献 13.0
尊敬 10.8	身体 10.9	品位 10.2	社会 14.3			
	視野 10.9	実力 10.2	自由 14.3			
		協調性 10.2	不屈 14.3			
		産業人 10.2	知性 14.3			
			畏敬 14.3			
			勤勉 14.3			
			明朗 14.3			
			時代 14.3			
			信用 14.3			
			勤労 14.3			
			文化 14.3			
			指導的人材 14.3			
			貢献 14.3			
			精進 14.3			
			民主 14.3			
大学数 83 100.0	大学数 64 100.0	大学数 49 100.0	大学数 7 100.0	大学数 9 100.0	大学数 21 100.0	大学数 23 100.0

が高い。「家政」系学部では、「良妻賢母」の育成を建学精神として掲げる大学が14.3%見られる。なお、「女性・女子」の出現率が高いのは「人文」「教育」「家政」であり、共学大と女子大で学部構成に偏りが生じていることがわかる。

続いて、女子大に限定し、開設当時の学部構成と建学精神との関連を見ると(表7)、「人文」系学部では、宗教関連のキーワードが目立つ。また、「人文」「家政」系学部から出発した女子大では、「良妻賢母」の育成を建学精神として掲げている大学が見られる一方、「社会・教育・その他」の学部から出発した女子大ではこのキーワードは見られない。特性を重視した女子教育観をもつ大学が、人文・家政関係の領域を通して女子教育を展開したことが見出せる。

2. 建学精神のキーワードの類型

続いて、キーワードの出現頻度の分布だけでは浮かび上がってこなかった建学精神のパターンを描くことを試みる。このパターンの抽出、すなわち建学精神の類型化にあたっては、キーワードの関連度を計測し、その「重複出現率」を算出した。「重複出現率」とは、例を挙げると、「A」と「B」というキーワードの出現頻度をそれぞれa回、b回、両方のキーワードが重複して出現する頻度をc回とした場合、 $(c \times 100 / \sqrt{a \times b})$ で示される値であり、この指標によりキーワード間の関連を分析し、建学精神の類型化を行う。さらに、描き出された建学精神の類型と大学の組織的特性との関連を検討し、女子大の位置づけを明らかにする。

なお、類型化を行うにあたっては、複数の大学が同一法人に属する場合、各大学法人のうち、大学開設年が最も早い大学を分析の対象とした。その結果、類型

化の対象となった大学は、共学大学130校、女子大64校の計194校であった。

建学精神の6類型

図1は、以上の手続きに基づいてキーワードの重複出現率を算出し、私立大学の建学精神の類型化を行った結果である。図中の太線は重複出現率30%以上、実線は重複出現率26%以上を示しており、重複出現率が26%に満たないキーワードについては図示していない。

分析の結果、図1に示すように、私立大学の建学精神が、次の6つに類型化された⁴⁾。

a. 「産業型」

「経済・商業」「社会」「地域」「発展」といった8つのキーワードで構成されるパターンであり、産業や社会、地域発展に貢献しうる人材の育成を建学精神としている。

b. 「勤勉・勤労型」

「勤労」「勤勉」「不屈」といった5つのキーワードで構成されるパターンであり、粘り強く勉学や労働に励むといった精神性の付与を建学精神としている。

c. 「創造型」

「指導的人材」「創造性」「開拓者精神」など3つのキーワードで構成されるパターンであり、開拓者精神や創造性を発揮し、指導的人材を育成することを建学精神としている。

d. 「教養型」

「女性」「自律」「知性」「徳性」「体育」および、「芸術」「文化」「資質」といった18のキーワードで構成されるパターンである。このパターンは、知・情・意の健全な育成、礼節・規律などの重視、芸術や文化といった資質の涵養を目的とする建学精神のパターンである。なお、この「教養型」には「女性」「地位向上」「良妻賢母」が含まれており、女子教育が教養の修得に力点を置いていることが読みとれる。

e. 「キリスト教型」

「キリスト教」「奉仕」「愛」「人間性」といったキリスト教のキーターム、及び、関連する性格を示す「国際性」「福祉」「平和」「責任」といった15のキーワードで構成されるパターンである。

f. 「仏教型」

「仏教」を中心に「和」「精進(努力)」「行学一如」といった仏教のキーターム、関連する性格を示す「伝統」「穏健」といった8つのキーワードで構成されるパターンである。

表7. 建学精神のキーワード出現頻度
(女子のみ、設置当初の学部構成別)

人文	家政	社会・教育・その他	(%)
女性・女子	女性・女子	女性・女子	50.0
キリスト教	人間性・人格	人間性・人格	25.0
愛	愛	知性	25.0
人間性・人格	自律	情操	25.0
自律	時代	自律	16.7
眞実	奉仕	奉仕	16.7
奉仕	良妻賢母	実行	16.7
個	社会	精進	16.7
尊敬	尊敬	仏教	16.7
良妻賢母	全人教育	徳	16.7
国際性	知性	国際性	16.7
精進	一般教育	身体	16.7
情操	恩		
全人教育	実行		
知性	責任		
仏教	勤勉		
一般教育	勤労		
社会	誠意		
自由	礼		
信念			
品位			
大学数 40	100.0	大学数 17	100.0
		大学数 12	100.0

以上のように、キーワードの重複出現率から描き出された建学精神の領域図から、産業や社会の発展振興に貢献できる人材の育成(a)、勤労や勤勉といった精神性の修養(b)、開拓者精神や創造性の発揮と、指導的人材の育成(c)、知・情・意の健全な育成、礼節・規律などの重視、芸術や文化といった資質の涵養など、教養を重視(d)、宗教的特性に基づく精神性の付与 (e・f) といった、私立大学の建学精神の6類型が浮かび上がってきた。各私立大学の建学精神は、いずれかの類型、あるいは複数の類型に属しており、多様な価値観のもとで設置されているという実態がわかる。

3. 建学精神の類型と大学の組織的特性との関連

3.1. 大学の組織的特性との関連

続いて、これら6類型と私立大学の組織的特性との関連を見る。表8はその結果であり、表中の数値は「平均出現率」を示している。

「平均出現率」とは、各類型に含まれる全てのキーワードの出現頻度の合計を「a」、各類型に含まれるキーワード数を「b」、組織的特性別の大学数を「c」とした場合、 $[a / b / c \times 100]$ で示される値である。すなわち、表中の数値は、大学1校あたり、各類型のキーワード1つが出現する割合を示しており、数値が高いほど平均出現率が高く、各類型と組織的特性との関連が強いことを意味する。

まず、共学大・女子大別に各類型のキーワードの平均出現率をみると、「産業型」「勤勉・勤労型」「創造型」は共学大、それ以外の「教養型」「キリスト教型」「仏教型」は女子大で高くなっており、建学精神に関してジェンダー・バイアスの存在が窺える。

次に、設置母体の宗教別に見ると、宗教系大学の場合、その基盤としている宗教関連のキーワードの平均出現率が高いことは当然のこととして読み取れるが、非宗教系大学の場合、「産業型」「勤勉・勤労型」「創造型」の数値が高かった。

さらに、大学の歴史別では、「創造型」が高いのは「旧私大」「旧私専」であり、「勤勉・勤労型」「教養型」は「新私大(-1965年開設)」、 「産業型」は「新私大(1966-86年開設)」で高い。1960年代は高度経済成長や技術革新の振興に応ずる技術者養成の必要が唱えられた時期であり、特に1970年代以降、文教政策に反映したという当時の状況を考慮すると、「創造型」から「教養型」へ、さらには「産業型」へと建学の精神の変遷は、大学教育のなかに

技術者養成が理念として取り込まれていった過程が表れているといえる。

なお、「キリスト教型」は「旧私専」で最も高くなっている。女子中等教育の拡大、及び高等教育を受けようとする女生徒の増大に伴い、当時、女子専門学校やキリスト教系の学校が数多く設置された状況を反映しているといえよう。

最後に、大学開設当時の学部構成別に見た場合、「産業型」のキーワードは「社会」「理・工・農」「教育」系学部で、「教養型」は「教育」「医・歯・薬」「その他」学部で、「キリスト教型」は、「人文」「社会」系学部で多く見られる。宗教型の建学精神を掲げる大学は、宗教への理解や宗教的情操の涵養を目的として人文系学部から出発している傾向が読みとれる。

3.2. 女子大の組織的特性との関連

表9は、建学精神の6類型と女子大の組織的特性との関連を見たものである。

女子大の宗教別、歴史別に見た場合については、全体の場合とほぼ同様の結果である。ただ、女子大の場合、「新私大(-1965年開設)」の「教養型」の建学精神を掲げる割合がかなり高い。

なお、女子大開設当時の学部構成別に見ると、「勤勉・勤労型」は「家政」系学部、「教養型」は「社会・教育・その他」の学部、「キリスト教型」の建学精神

表8. 建学精神の類型と大学の組織的特性 (%)

		産業型	勤勉・勤労型	創造型	教養型	キリスト教型	仏教型
全体		6.6	6.1	4.6	5.7	9.9	4.3
女共学 女子大	共学大	8.2	7.1	6.2	4.3	9.5	3.7
	女子大	3.5	4.1	1.6	8.5	10.7	5.7
宗教別	キリスト教系	1.7	1.1	1.9	3.1	22.6	1.0
	カトリック系	2.8	4.4	3.7	4.9	20.0	1.4
	プロテスタント系	1.4	0.0	1.2	2.5	23.5	0.9
	仏教系	4.9	2.6	0.0	5.1	6.1	16.3
	その他宗教	4.2	0.0	0.0	5.6	4.4	0.0
	非宗教	8.3	8.2	6.3	6.5	7.2	3.2
歴史別	旧私大	2.2	5.2	5.8	3.1	7.5	3.3
	旧私専	5.8	5.0	5.4	6.2	11.7	4.9
	新私大(-1965年開設)	6.4	7.8	4.5	6.8	8.6	3.6
	新私大(1966-86年開設)	9.6	5.7	3.6	5.2	10.5	4.9
開学当 時の学 部構 成	人文	4.3	2.4	4.5	5.6	12.0	5.5
	社会	7.2	8.5	8.2	3.7	10.5	3.3
	理・工・農	9.5	8.3	6.5	3.4	8.8	2.4
	医・歯・薬	2.5	0.0	6.7	7.8	6.7	0.0
	教育	8.3	6.7	7.4	8.6	8.1	5.6
	家政	3.0	7.6	1.6	7.4	7.0	4.8
	その他	5.7	5.5	4.5	7.8	8.2	4.5

表9. 建学精神の類型と大学の組織的特性(女子大) (%)

		産業型	勤勉・勤労型	創造型	教養型	キリスト教型	仏教型
宗教別	キリスト教系	2.2	1.2	0.0	5.9	21.6	0.7
	カトリック系	3.6	2.9	0.0	6.3	21.9	1.8
	プロテスタント系	1.3	0.0	0.0	5.6	21.3	0.0
	仏教系	1.5	1.2	0.0	4.2	4.3	11.8
	非宗教	4.5	6.1	2.8	10.3	6.9	4.2
歴史別	旧私大・旧私専	3.2	4.4	2.5	7.8	11.6	5.6
	新私大(-1965年開設)	2.9	4.7	2.0	11.8	10.2	4.4
	新私大(1966-86年開設)	4.4	3.0	0.0	6.7	10.0	6.9
開学当 時の学 部構 成	人文	3.8	2.6	2.6	7.4	13.0	6.1
	家政	3.7	7.1	2.0	8.2	8.6	3.7
	社会・教育・その他	1.0	3.3	0.0	12.0	7.2	6.3

を掲げる女子大は「人文」系学部から出発している。

3.3. 1987年以降の女子大の動向との関連

近年の志願者数の減少や女子学生の共学志向に伴い、優秀な学生の安定確保の点で女子大を取り巻く環境は厳しくなっている。

この状況のもとで、特に1990年以降、女子大の共学化の動きが加速している。分析対象65校を見ると、50校(76.9%)は今日まで女子大として維持・存続しているが、15校(23.1%)は1987年以降に共学化している。では、どういった建学精神を掲げていた女子大が共学化したのであろうか。1986年時点の建学精神とその後の動向との関連を検討したものが表10である。

女子大として存続している大学は、「キリスト教型」の建学精神を掲げる大学が多く、キリスト教主義の女性観が女子のみの教育を堅持していることがわかる。一方、「仏教型」は共学化に移行する傾向が強い。

また、共学化した大学の特徴を見ると、女子大として存続している大学と比較して、1986年時点で「産業型」「勤勉・勤労型」「創造型」キーワードの平均出現率は低い。なお、「教養型」キーワードの平均出現率は女子大の方が高いものの、注5に触れているように、「女性・女子」を除く17キーワードで平均出現率を算出した場合、女子大より共学化大学の方がその数値が高くなっており、教養型との関連が強いという結果が見られた。

この点を加味すると、1986年時点で「産業型」「勤勉・勤労型」「創造型」の建学精神よりも、「教養型」(「女性・女子」を除く)の建学精神をより強く打ち出している女子大は、その後共学化する傾向が強いということを表10の結果から読みとることができるであろう。この結果のみで語ることは難しいが、女子の共学志向や資格志向が強まり、社会の男女平等への動きがみられる現在、「教養型」の建学精神を打ち出す女子大が敬遠されがちであり、女子教育が「教養型」から「産業型」「勤勉・勤労型」「創造型」に移行しつつあるといえよう。

IV. 考察と課題

以上、私立大学の建学精神について、キーワードを

抽出し、その類型化を試みた。その結果、本分析を通して、以下のことが明らかになった。

- ①キーワードの出現頻度を見ると、私立大学の建学精神は、共学大学とでは女子大とでは大きく異なっており、女子大の多くは人間性の涵養を目的として設立されている。また、設置母体の宗教性や大学の歴史、開学当時の学部構成によっても建学精神は異なっており、大学設置当時の産業構造や女子教育観を反映している。
- ②キーワードの重複出現率を見ると、私立大学の建学精神は、「産業型」「勤勉・勤労型」「創造型」「教養型」「キリスト教型」「仏教型」の6パターンに類型化される。
- ③「教養型」の建学精神を掲げる割合は女子大で高く、反対に、「産業型」「勤勉・勤労型」「創造型」は共学大学で高い。また、宗教型の建学精神を掲げる大学の多くは、宗教への理解や宗教的情操の涵養を目的として「人文」系学部から出発している。さらに、時系列的に見た場合、「創造型」から「教養型」へ、そして「産業型」タイプへとといった建学の精神の変遷が見られた。
- ④1987年度以降共学化している女子大を見ると、1986年時点で「産業型」「勤勉・勤労型」「創造型」の建学精神を掲げていた大学の割合は少なく、主に「教養型」の女子大が共学化の道をたどっている。また、「キリスト教型」の建学精神を掲げる大学は、「仏教型」と比較して、女子大を堅持している。

では、私立大学のなかで女子大はどう位置づけられるのか。共学大学は産業や社会の発展、精神修養、指導的人材の育成に目的とする大学が多い。これに対し、女子大は「教養型」や宗教型の建学精神を掲げる割合が高く、より人間陶冶を目的とする大学が多い。

「教養型」は、貞淑・勤儉などの精神性の修得や芸術・文化の涵養などによって知・徳・体を健全に発達させるとともに、自律した女性の育成を目指すパターンである。また、「良妻賢母」と「地位向上」というキーワードがともに「教養型」に含まれていることから、良妻賢母主義に基づく特性教育と、女性の社会的地位の向上を目指す教育という2つの教育理念が同一

表10. 1987年以降の女子大の動向と建学精神の類型 (%)

	産業型	勤勉・勤労型	創造型	教養型 ⁵⁾	キリスト教型	仏教型
1987年以降の動向	3.8	4.5	2.0	8.7(6.1)	11.4	4.3
女子大として存続						
共学化	2.5	2.7	0.0	7.8(6.7)	8.4	10.0

の次元で語られていたこと、つまり、女性の社会的役割に沿った教育を行うことが社会の発展に貢献するという女子教育観に基づいて、女子大学が設立され、存続していることがわかる。

さらに、「キリスト教型」「仏教型」の女子大も多く、女子高等教育は多様な価値観に基づいて設置されているのである。

中西（1998）が明らかにしたように、女性の進路分化や価値観は、「アカデミック・トラック」のみで形成されるのではなく、学校組織を構成する女子教育観や学生の内面化する性役割観の差異に基づいて学校間で形成される「ジェンダー・トラック」によっても分化している。女子大の建学精神の多様性を明らかにした本分析の結果は、このジェンダー・トラックの存在を浮き彫りにしているといえよう。

しかし、それと同時に、女子大を取り巻く状況変化のもとで、女子教育そのものの概念が変化しつつあるのである。

ただ、この変化が、女子大の組織構造や実際の教育内容そのものを変えうる力に繋がっているかといった問題は、現時点では明らかではない。産業構造が変化し、約15年を隔てた現在、女子大がどのような教育方針のもとで存在しているのか、1986年と比較してどういった変化を遂げているのか、この点はさらなる分析を要する問題である。

【注】

- 1) この資料が編纂された当時は、学習指導要領に「学校の主体性を尊重し、特色ある学校づくりができるようにすること」と書かれていた時期であった。
- 2) 本資料は日本私立中学高等学校連合会の記念誌であるため、附属中学校・高校を併設しない大学については収録されていない。
- 3) 藤村（1984, 66頁）は、旧帝大、旧国大、新国大、公立大、旧私大、旧私専、新私大の7グループの分類により大学の階層構造を捉え、私大の場合、旧私大、旧私専、新私大の順に威信が配列されているとしている。

なお、「旧私大とは、戦前すでに私大として認められていた大学」であり、本分析の対象となったのは、慶應義塾大学、國學院大学、駒澤大学、専修大学、玉川大学、中央大学、東海大学、東京農業大学、東洋大学、日本大学、日本女子大学、法政大学、明治大学、立教大学、立正大学、早稲田大学、大谷大学、同志社大学、立命館大学、関西大学、近畿大学、高野山大学、久留米大学の23大学である。

また、「旧私専とは、戦前の専門学校が、戦後大学に昇格した大学」であり、本分析の対象となったのは、東北女子大学、東北学院大学、宮城学院女子大学、麗澤大学、和洋女子大学、青山学院大学、上野学園大学、学習院大学、共立女子大学、国立音楽大学、工学院大学、国士舘大学、実践女子大学、芝浦工業大学、昭和女子大学、白百合女子大学、成蹊大学、成城大学、聖心女子大学、大東文化大学、拓殖大学、東京家政大学、東京家政学院大学、東京電機大学、二松学舎大学、武蔵工業大学、武蔵野音楽大学、明治学院大学、麻布大学、神奈川大学、鎌倉女子大学、関東学院大学、女子美術大学、フェリス学院大学、金城学院大学、椛山女学園大学、南山大学、名城大学、京都光華女子大学、京都女子大学、種智院大学、同志社女子大学、花園大学、大阪樟蔭女子大学、大阪商業大学、大谷女子大学、摂南大学、梅花女子大学、甲南大学、神戸女学院大学、武庫川女子大学、天理大学、ノートルダム清心女子大学、広島文教女子大学、西南学院大学、長崎総合科学大学、熊本学園大学、別府大学の58大学である。

なお、女子大のみを歴史別に分析する場合、サンプル数の都合により「旧私大」と「旧私専」を合わせて1つのカテゴリーとし、分析を行った。

- 4) 「自覚（出現頻度4）」「国体(3)」「忠誠(2)」のパターンについては、出現頻度そのものが少ないため、類型に加えなかった。
- 5) 表中の「教養型」について、() 外の数値は、「教養型」18キーワードの平均出現率を示しており、共学化大学よりも女子大での平均出現率が高い。ただ、() 内の数値は、「女性・女子」のを除く17キーワードで見た場合の平均出現率であるが、この数値を見ると、女子大6.1と比較して共学化大学6.7と、共学化大学における教養型キーワードの平均出現率が高くなる。このことから、女子大は、建学精神に「女性・女子」の出現率が多く、女子教育を前面に打ち出している大学であるといえる。さらに、「女性・女子」を除く17キーワードで平均出現率を算出した場合、女子大より共学化大学の方がその数値が高くなっており、教養型との関連が強いという結果である。つまり、1986年当時、女子教育の強調がないままに教養型の建学精神の前面に掲げている女子大は、その後共学化する傾向が強いと解釈できる。

【参考文献】

天野郁夫 1986『高等教育の日本的構造』玉川大学出版部。

- Clark, B., 1983, *The Higher Education System*. Univ. of Calif. Press. (有本章訳 1995『高等教育システム』東信堂。)
- 藤村正司 1984「大学教授市場の変化」新堀通也編『大学教授市場の総合的研究』多賀出版, 52-94頁。
- 井上靖子・大西加愛・難波美都里・堀内圭子 1996「女子大イメージの虚と実—パンフレットは何を語るのか—」大阪女子大学人間関係学科『人間関係論集』No.13, 147-189頁。
- 伊藤一統 1996「私立大学の建学精神の内容分析」山崎博敏編『私立高等教育機関の建学精神と環境適応』平成6年度～平成7年度文部省科学研究費補助金一般研究(C)研究成果報告書, 35-46頁。
- 片山清一 1984『私学行政と建学精神』高陵社書店。
- 牧野暢男(代表研究者) 1999「女子大の将来展望に関する総合的調査研究」『日本女子大総合研究所紀要』第2号, 39-93頁。
- Masland, A. T., 1985, “Organizational Culture in the Study of Higher Education,” *Review of Higher Education*, vol.8, pp.157-168.
- 文部省 1972『学制百年史』帝国地方行政学会。
- 中西祐子 1998『ジェンダー・トラック』東洋館出版社。
- 佐光昭二 1986「女子別学の教育実践に関する調査研究」日本私学教育研究所『日本私学教育研究所紀要』第22号(1)教育・経営篇, 73-95頁。
- 山崎博敏 1995『大学の学問研究の社会学—日本の大学間および大学内の分業を中心—』東洋館出版社。